斎の森神社と八日市場

　この斎の森神社の歴史は鎌倉時代、およそ７００年ほど前に建立されたといわれ、中世以降は諏訪大明神といわれた。東山道信濃路の峠(諸説あるが一本松であると思われる)を下って、川中島平に入る入口を守る神(塞いの森)として、また、武水分神社に対して先の森であったといわれいる。

　この地籍は八日市場と称され、八幡宮を遥かに拝む交通上の要所であった。八の日に市が定期的に開催されたのは鎌倉時代からであろうか。これより先の郡下の年貢を、遠路木曽路を超えて、大和の国まで運ぶ交易(米や絹などを金銭にかえて上納)の場であつたといわれている。

　今は、主なる催事として、毎年十二月十日から五日間行われる大頭祭()の大祭の出発神社として、伝統を引き継いでいる。

　また、この神社にモダンなレンガ造りの献燈台が目に留まる。大正九年十二月に、当時の窯業と煉瓦職人の遺産(三重県津市立合町煉瓦職人清水万吉)により寄進建造され、当時を偲ぶ思いで深いものがあり、斎の森神社の象徴的役割を果たしている。

(神社内設置説明文による)